

ESDfc2015HR 記録

2015年9月26-27日

## セッション1 共通基盤づくり

11:00-13:00

1. ジャーナルづくりで自己紹介
2. 研修・学びあいの場でのコミュニケーションの課題
3. 二日間の心がけ
4. 人間のコミュニケーションについて考える
5. 傾聴

今回の「共通基盤づくり」はおもしろかった。

「話し合いの心がけ」というのは必ず共有するのだけれど、その前に自己紹介などを行う。何か「操作的」な、つまり手を動かすものが楽しい。

今回は、「ジャーナルづくり」。まずはA3用紙に切り込みを入れて「パタパタ四つ折り」ノートを作ってもらおう。あっという間にできたのが小学校の先生。さすが。

その表紙(A6サイズになっていますよ)に、自己紹介としてのワンポイントを書いてもらいます。色とりどりの縁まわしをきれいに書いた方がいて、刺激を受けました。

その作業の後、ワンポイントの自己紹介と研修への期待の二点を全体で共有。

そういうところから、参加者のニーズが見えてくる。抽出したのは「これまでの研修で感じたコミュニケーションの課題」。そのテーマについて個人作業[1]、ペア作業で共有[2'延長してもう2]、全体共有[20]。共有した言葉は「異和感」。こういう時に共有された言葉は、研修を通底するキーワードとして、ずっと共有されることがありますが、今回もばっちりそうでした。

コミュニケーションの課題を全体共有し、板書しました。

□ 研修・学びあいの場でのコミュニケーションの課題=これまで感じた異和感

研修・学びあいの場での  
コミュニケーションの課題は?  
・これまで感じた異和感

- 構成メンバーの課題
  - ・ 知りあ... → 深まり
  - ・ 初めての人がかり → 表面的  
自己開示
- キックボールにたさない。  
一方方向の研修  
講師 → 参加者
- 時間限られている一矢言  
と表面的にたかたか。  
30分~1時間だと難しい?

自分の受容のきっかけは、どの?  
「目からうろこ」(具) DV男 - 幼児体験  
(具) 自分の表情がカメラに映る  
(具) 深まりたいかあ! (具) あ. やめた。 Role Play = 2セ. 表現  
ミー (あさあさあ)

参加者の参加意識・期待  
同じような認識も育ち = 盛り上げる  
深まり。

自己紹介 - 名前だけ言っただけ。  
互いのコミュニケーションは、2日間

絶対主義  
相対主義  
普遍主義

どんなコミュニケーションを  
しようかな?  
→ 2日間の心がけ

これまで感じてきた課題を踏まえて「二日間のコミュニケーションの心がけ」を考えました。ペアで考えてもらったものを全体共有。これは研修の間中、立ち戻るものなので、板書は紙に。書いたものは白板に掲示しておきました。

次の日、一日だけ参加の方がいて、共通のコミュニケーションのルールを共有するのに役立てたのと、「残された課題」の中でも、もっと深めたいと取り上げられました。「共有度」の高い言葉や課題がある研修は、深まります。

□ 二日間の心がけ

二日間の心がけ

2015-9-26-4  
Huran Knight's

- ・ 互いのこぼれが尊重されるコミュニケーション
- ・ できる範囲(安全安心が前提)で自己開示
- ・ お互いの経験が共有できる
- ・ どの節度上同じ
- ・ お互いを促り上げる共同作業 / 次の実践につなげる
- ・ 「目からうろこ」を心がける
- ・ 自分がひらけ出されるような...
- ・ WSがおもしろいと思っ、ごめんなさい「おもしろい」言わね
- ・ 楽しめたら
- ・ ... 「あ、 「無文字社会」

川田順三

- ・ 博識になる。
- ・ 共有できる

「歌うナンディル」 Hmmm musical, mimetic  
Holistic, multi-modal, manipulative

2日間の心がけ = 相互目標

- いいことね。 □ いいよね。 □ すてきだね。
- なんかさ、どうなの? □ よかさをさね。
- なんかお外に何かありますか? □ あともういっぺん!

コミュニケーション・ナンディル化促進7ルール

- 相手の反応をからげを表現して肯定/再現してね
- 粘土、色、音、におい、感覚的 □ まねる。
- こぼれを使わずに気持ちを伝える □ あいさつをさる。
- 手作業で

■ 配布資料より 「広げ、深める質問」

## ホワイトボード・ミーティング® 質問の技カード

(広げ、深める質問)

●オープン・クエスチョン

- 1 ~と、いうと?
- 2 どんな感じ?
- 3 例えば?
- 4 もう少し詳しく教えてください
- 5 具体的にどんな感じ?
- 6 どんなイメージ?
- 7 エピソードを教えてください
- ⑧ なんでもいいですよ 話し手は考えている
- 9 ほかに?

●あいづちの例

- 1 うんうん
- 2 なるほど、なるほど
- 3 わかる、わかる
- 4 そうなんだあ
- 5 へえ
- 6 だよねえ
- 7 それで、それで
- 8 そっかあ

●クローズド・クエスチョンは数量や固有名詞など

5W

ホワイトボード・ミーティング®  
質問の技カード 販売中!  
名札や財布に入れてご利用下さい



名刺サイズ (緑・紺・オレンジ)

1枚 50円 / 10枚 400円 / 100枚 3,000円  
(100枚以上送料無料)

※ホワイトボード・ミーティング®では、情報を第1~第4階層まで構造化します。特に発散のときはその場になかった人も「まるでその場にいたかのように頭の中で動画モードで情景が再生され、情報が共有できる」ことを大切にします。質問の技カードを活用して練習するとエピソード=事実、関係性、感情を共有でき、発散が効果的に進みます。発散が深まらないと議論が陳腐化します。

■ なぜ「ネアンデルタール人」なの?

ポイントは、「学び」を表面的な知識にとどめずに、価値観や行動変容につなげていくこと。そのためには「からだ全体 Holistic」な学びが大切。そのためには「ネアンデルタール人」のコミュニケーションに学ぼう!

実は、ネアンデルタール人だけでなく、無文字を選択した人類のほとんどが、同じようなことを指摘しているのです。

無文字を選択した人類というのは大きく分けると三カ所に分かれています。

一つは、アフリカの多くの民族。

二つ目は、オーストラリアのアボリジニ。

そして、3つ目が北米インディアンです。

インカ帝国も文字を持っていましたが、その文字の共有が神官らだけに限定されていたということを考えると、中南米も四つ目の分類に入るかもしれません。また、イヌイットと呼ばれる北極圏に生きる人々も、日常生活的には無文字だと言えるでしょう。

アフリカの無文字の民族の一つ西アフリカのモシ族については川田順造さんが研究し、何冊も本を出しています。音楽で民族の歴史や経験を伝承しています。

北米インディアンのケースが面白いのは、文字化されていく極東を経ていったはずなのに、無文字を選んでいること、自分たちの歴史を「口承」で残したことです。

川田さんは無文字社会について「声」と「語り」が個性的であり、均質化されていないことを指摘しています。

北米インディアンの口承の語り部であるアンダーウッドさんは、語り部の力量について「3つの語り方ができること」と言っています。多様なモードで語れること、相手に合わせて語れることが、知恵の伝承においては大切だと指摘しています。

現生人類は文字化した人々と無文字を選択し続けた人々で構成されているのです。

プラトンは文字化することについて「表面的な博識者になる・ウソをつくようになる」というような課題があることを指摘していたと川田さんは言います。

まさしく、これは、いまの時代に、わたしたちが感じている社会的な課題ではないでしょうか？ 知識が生活や生き方を豊かにすることに結びついていない教育。口先だけの嘘を着く社会。

もし、わたしたちが無文字で生きるということからの知恵に学ぼうとするなら、現生人類の前人類、そして、あるいは歴史のどこかの段階で、どこかの地域で混交して生きていたかも知れないネアンデルタール人のコミュニケーションから学ぶというのはどうでしょうか？

それが『歌うネアンデルタール』の HmMMM なのです。

- H Holistic 全体的で
- m multi-modal 多様なモードを活用する
- m musical 音楽的で
- m manipulative 操作的で
- m mimic 模倣的、(わたしは「ミラー」のような活動がこれにあたると感じています。)

全体言語主義(Whole Language Approach)というのは PLT の方法論の五つの理論的背景の一つにあげられています。

また、多様なモードでというのは「多重知能論」によって7つの知能として整理されているものに近いでしょう。

その他、音楽を共有する、いっしょに手を動かす、共振する、などは、多くのアクティビティに取り入れられている手法でもあるのです。

地球のいのちの歴史のすべてが、わたしたちの中にある。そして、そのいのちが、いま、あなたという形をとって、生きている。

人間っていいなあ。いいものも悪いものも、大切にしたいものも、変えたいものも、すべて、わたしたちの中にある。

わたしたちの中にある種に「水」をあげるのが人権研修。どの種を育てたい?それはなぜ?

セッションの最後は、軽く「傾聴」をして、次のセッションへ。今回は「傾聴」ではなく「広げる・深める相乗効果」を目指して、お互いからどん欲に学びあうコミュニケーションを探りました。そのため「傾聴」のトレーニングはスルーでしたね。

## セッション 2. 流れのあるプログラム「わたしの異和感についてみんなの頭で考える」

14:00-16:10

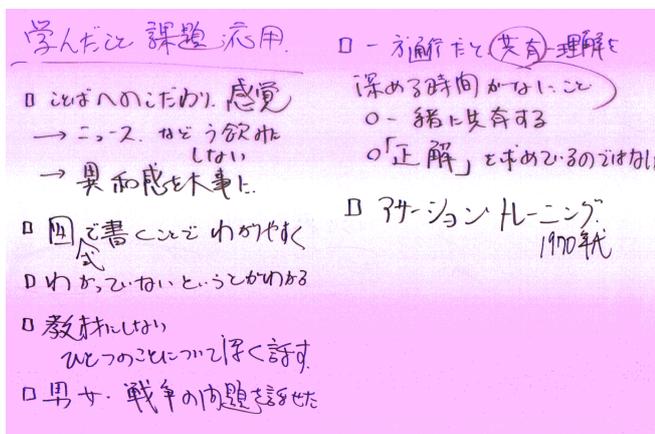
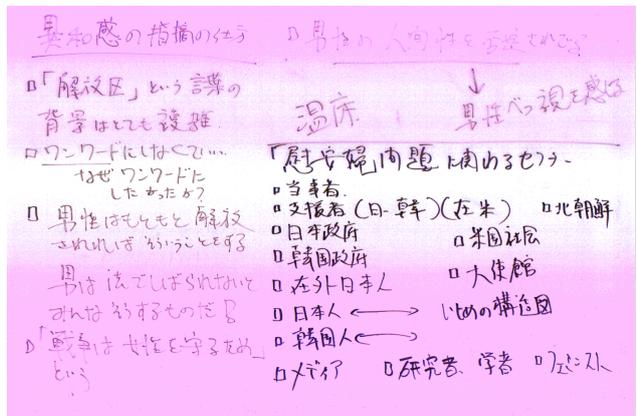
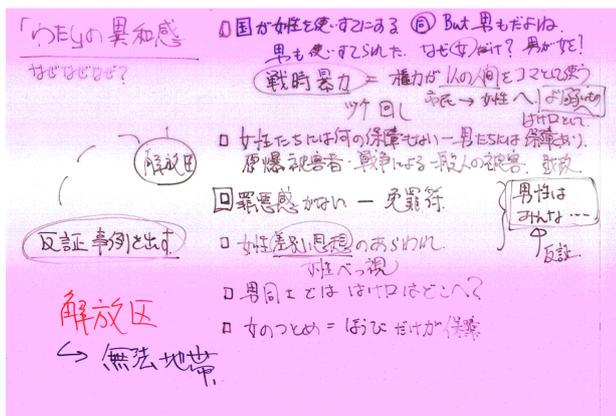
1. 「ニュースレター」を読む[個人作業→「わたしの異和感」の整理→ペアで共有]
2. それぞれの異和感を掘り下げる[「わかる vs わからない/同意する vs 同意しない」の

二次元軸、あるいは「わたしの異和感」なぜなぜなぜの分析図]

3. 「解放区」はないやろ! その異和感はどこから?
4. あなたならどうする? ニュースレターの発行者に手紙を書こう!
5. 慰安婦問題を取り巻くさまざまな立場
6. みんなの頭で考える流れのふりかえり、学んだこと・応用できること

その日の朝読んだ某団体のニュースレター。内容はともかく、見出しに使われていた言葉に「カチーン」。こうなると、人権研修のネタに。どんな流れを事前に考えていたとしても、「許せない」気持ちでぶつとんでしまう。

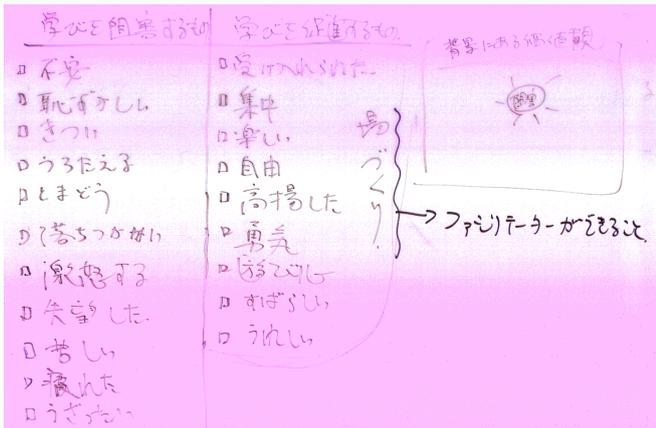
後で、あああ、ちょっと飛びすぎていたなああと、ふりかえるのだけれど、強く感情が動いているものは伝わりやすい。案ずるより生むが易しなのがホットなネタです。ドンマイ、ドンマイ! 使い古されたアンチョコ・ワークシートより、手書きのペーパー。ですよ。ライブなのは。



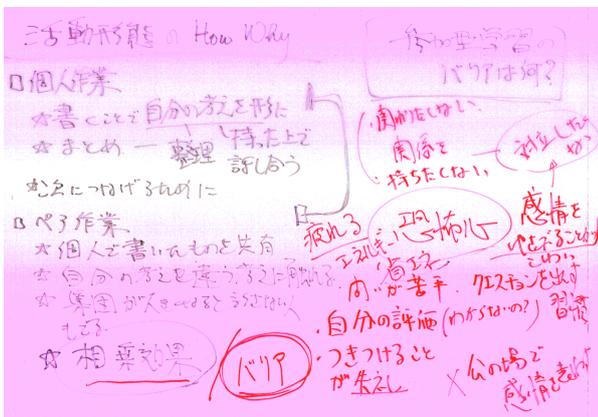
### セッション 3. ふりかえりと参加型学習の特徴とすすめ方

16:20-18:00

1. 「さまざまな感情」でふりかえる。



2. プログラムの流れを「流れのあるプログラム評価表」でふりかえる。四つの活動形態と活用のポイント。



### 3. 参加型学習の特徴

このセッションで新しかったのは、「さまざまな感情」でのふりかえりで共有された「学びを阻害するもの」こそが、学習者が価値観を揺さぶられ、とまどい、たたずみ、自分を守ろうと拒絶的になっている局面なのではないか、その時こそが最大の学びのポイントとなり得るのではないということでした。

「学びを促進するもの」にあげられているものは、確かに学びの場の条件を整えるものでもありますし、参加しやすい条件でもあります。しかし、決してそのこと自体が学びのポイントにはならない。

その感情を感じている時の背景の価値観はなんだったのかをふりかえることで、学びを阻害しているものは、実は、自分の中にあることを知るのではないのでしょうか。

ちょっとおもしろいですね。

さらにすすんで、それらの感情を「学びのバリア」と呼んで、セッション6の「残された課題」で再度考えることができたのは、とても良かったです。

「無関心の悪循環」を破ろうというのが、ERICの参加型の出発点です。これらの感情は「学びのバリア」ではありますが、無関心、無感情よりは、よいのではないのでしょうか？ 少なくとも、対策をたてることは可能ですよね。

## セッション4 アクティビティ開発

9:00-11:10

### 1. 昨日のふりかえりと学んだことの共有

3つの学びと、新しい参加者に伝えたい・共有したいこと一つ

- ◎ 異和感を取り出すことで、学びにつながる
- ◎ 参加者の怒りもOK
- ◎ 名付けること 参加のバリアから学びのバリアへ
- ◎ ネアンデルタール化
- ◎ 深める広げる相乗効果
- ◎ サポーターシップ/リーダーシップ
- ◎ めざせ「目からウロコ」

「めざせ満点アドボカシー社会」の共有

### 2. アクティビティ開発

異和感リストを洗い出す

12のものの見方・考え方とのかけ算

### 3. 経験学習の四段階、起承転結でプログラムの流れへと構成する

素材 ← 異和感

- ベビーカー
- 「仕方ない」
- マイノリティの許之を無視すること
- 公園・テニスコートで寝るパパ・お父さん・父親/ママ
- 主体的不登校の子ども

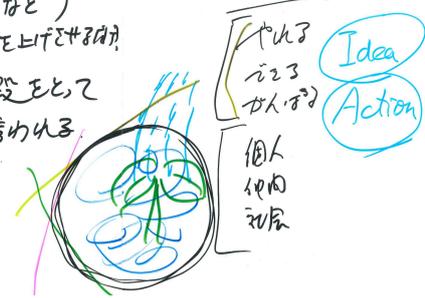
Personal is Political  
 ① あんな許之をAS.受けておらん  
 ② 許之を言いつめ世・社会の全体的不利益  
 ③ 問題を正しく正して止める社会に向けた体質改善/生活習慣

- 「わたし」に引きつける
- 分岐する(わかる)

意識の落差

- 見えないカテゴリ - 金銭 (部落・LGBTなど) 当事者に声を上げたい
- 夫が育児休暇をとって「エライね」と言われる
- 貧困
- 性別役割

- 社会的影響
- 改善策



# 素材 手法

## 1. 小費用向の異和感 空間的に

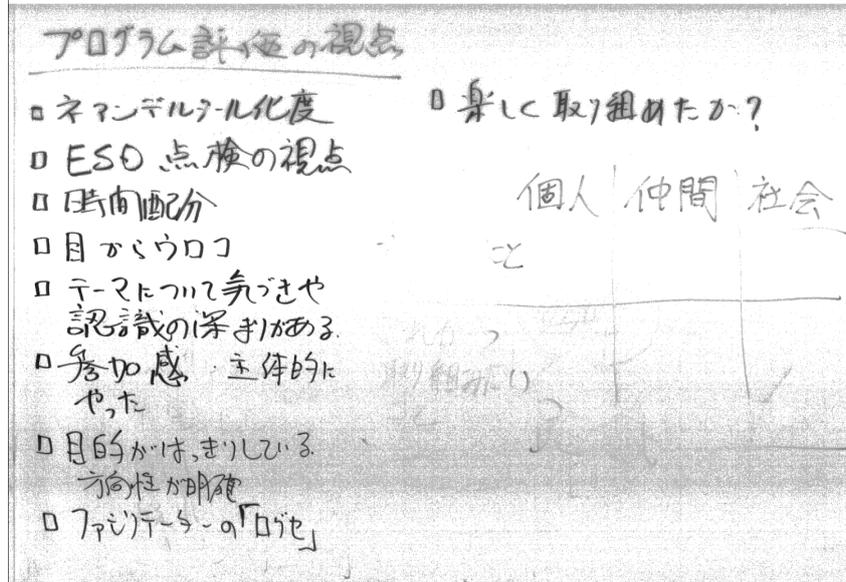
- ワークライフバランス  
男に求められるようになった
- 24時間・11時間制  
物価/給料対比  
時間軸、実話、0-120分
- 差別用語・インターネット  
空間軸(どこどこ)、分類する  
- 年齢  
- 性別  
- 性別性
- ハイトスピーチ  
金銭感をつかむ、分類  
たかひら、DIP、Tセ分析  
ピーチ(後悔)を特長、(因果関係)
- 人権 Be Happy!  
(幸福追求) 幸せの何がなん  
図式化、(ハッピー)対比、分類
- 心のバリア  
人にかかると心のバリア  
アベ印出し → 行動計画  
11件を伝えよう人と伝えよう人  
CD、レポート作成、自己分析  
シミュレーション
- LGBT 小説的 少年性  
「多様性、多様性」  
シミュレーション

## セッション5 アクティビティ実践

12:00-14:00

- 人生 BeHappy!
- 「仕方ない」は仕方ない?

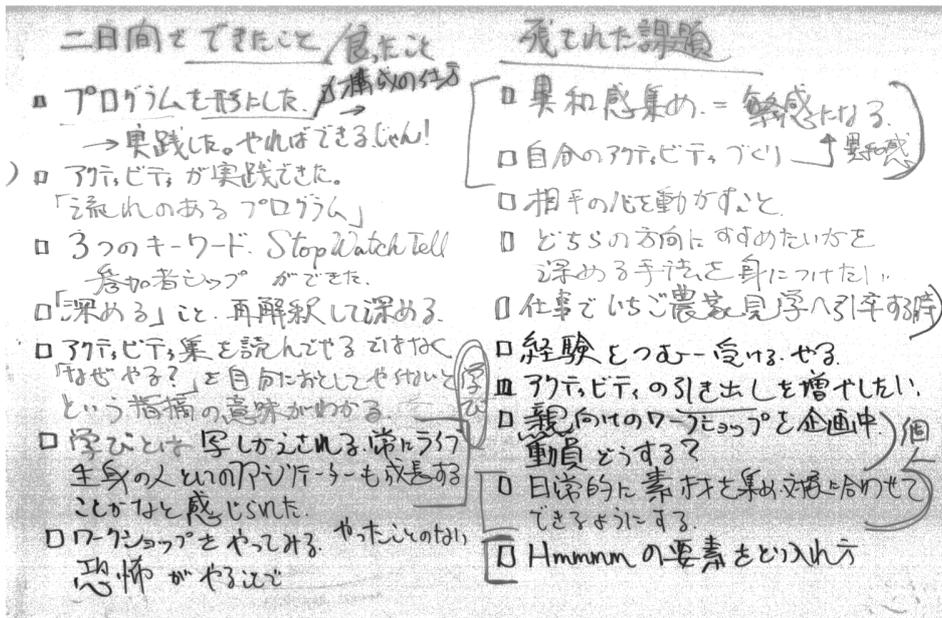
## ■ プログラム評価の視点の共有



### セッション 6 ふりかえりと個人的行動計画

14:00-16:00

1. ジャーナルで二日間をふりかえる[個人作業]
2. 達成できたこと/残された課題[個人作業→全体共有]
3. 赤青緑のチームで「残された課題」を分担する。
  - 赤 異和感を引き出す感性を磨くには?
  - 青 Hmmm を取り入れる
  - 緑 学びのバリアを名付ける
4. 個人的行動計画・プログラム改善立案



■ 残された課題 3つ

- 赤 異和感を引き出す感性を磨くには?
- 青 Hmmmm を取り入れる
- 緑 学びのバリアを名付ける

- 赤 異和感を引き出す感性を磨くには?

**「異和感」の素材集め  
日常化ヒント集**

- 新刊雑誌、を三色ペンを持って読む。インタビュー、平和、障害(年齢)環境
- 引、かかった言葉をネットで検索。5つ以上の角度から探す。

- 「吐き気」捨てる箱を作る。くしゃくしゃ丸めて捨てる。MITボック22 (2巻) は、スピーチ禁止(管理)
- 動画
- トセナ(ひかか)の証拠を残す。物証
- 定期的にふりかえる。
- 異和感リストを整理。

□ ネガティブな感情こそが大事 でも、保っていると不健康。工夫する。

- 青 Hmmmm を取り入れる

白石さん  
の学び

セ.の26

ネーティブな人

学び  
伝承



アズマ-タカシ  
ミナ  
H-ミン  
音韻  
高松  
早稲田  
をmix  
people

○ 文化的に理解が難しいものは？  
○ 対象者、年齢  
○ 障害のある対象者

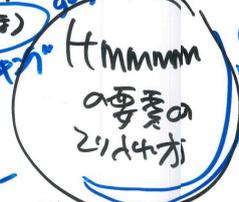
Holistic (全部一挙)

Mult-modal (2以上の方法)

Manipulative (操作小生)

Musical (音楽)

Mimetic (まね、まねる)



- ① 音の音がわかるようになる
- ② 目的をたどる
- ③ 個人 → パーソナル → 集団 → 全体

エビに生かす!

□ 既存アセスメントの活用

① □ 評価..

□ どうアセスメントが活用できるか

② □ 個人者としてアセスメントの活用

□ アセスメントのHmmm実践が「ドクメンテーション」

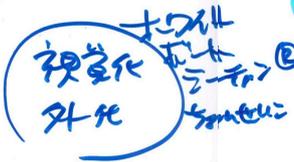
- 日記
1. 観察 ~ 45
  2. ...
  3. ...

目的/効果  
□ 学び-伝承  
□ 多量の学び

1.4 ~ 身ぶりの伝承

楽器 - 手拍子, 木打機-カサバ

④. 絵 non-verbal communication



緑 学びのバリアを名付ける

実りの多い二日間でした。

■ 深めたい課題

- 学びのバリアの分類と名付け
- 学びの Hmmm を活かすアクティビティの分類と整理